

4/1	火	新学年 エイプリルフール
4	金	清明
6	日	大安
8	火	花まつり
12	土	大安
18	金	大安
20	日	穀雨
24	木	大安
29	火	昭和の日 大安
5/1	木	メーデー 八十八夜
3	土	憲法記念日
4	日	みどりの日
5	月	こどもの日 立夏 大安

4月 シティ信金行事予定

- 新入職員入庫式
1日 午前10時から
本店 2階 大ホールにて
- シティ信金写経会
8日 午前9時から
奈良西ノ京 薬師寺にて
- 地元への奉仕活動(清掃)
全店舗で実施

シティ信金協賛行事予定

- 第36回大阪シティ信用金庫杯
第45回大阪府春季少年軟式野球大会
13日～5月17日まで
開会式・万博記念公園野球場にて



空と海とマッチした青の絶景を生み出す

ネモフィラ

北アメリカ西部原産のネモフィラは、春の花壇に多く使われています。澄んだブルーの花弁が特徴的で、春の空や海とマッチした絶景が人気です。属名の *Nemophila* は、*nemos* (小さな森) と *phileo* (愛する) の合成語で、森の中の陽だまりなどで群落をつくって自生する成育環境にちなんでいます。

花言葉は、姿から連想した「可憐」や、原産地だけでなく各地で根付いて成長するため「どこでも成功」があります。こ

うした花言葉を持つことから、出産や開業・開店祝いのプレゼントとしてもおすすめです。

関西でも多くの名所があり、大阪市立長居植物園(東住吉区)や淡路ファームパークイングランドの丘(南あわじ市)、滋賀農業公園ブルームの丘(日野町)などが有名です。4月中旬から5月中旬にかけて見ごろとなりますので、ぜひ足を運んでSNS映える青の絶景を楽しんでください。

Monthly essay



生きたレガシー

万 博記念公園(吹田市)を3年ぶりに訪れた。目指す「あじさいの森」への道は通行止めになっていた。今年9月26日まで改修工事だという。

「自立した森づくり」の様子が見えなかったからだ。迂回して小径を進むと、そうした現場が至る所にあつて、「あじさいの森」に行けなくても不都合はなかった。

「自立した森」。その先駆けは明治神宮(東京都渋谷区)である。代々木の荒地70畝に植林を始めたのは1915(大正4)年。人の手入れを必要とする雑木林(針葉樹主体)は、綿密な林苑計画と100年の歳月によって、自らの力で世代交代を繰り返す原生林(常緑広葉樹主体)に変身した。

遅れること半世紀。1970年万博のパビリオン跡地100畝に多様な生態系の森林を

再生する事業が始まった。目指すのは「自然の再生と公園的利用の両立」。来園者から樹林地を守るため、「園路から外れないで」との掲示板が立つてはいるが、人と自然は大らかに混じり合う。全体の9割を「神域」として立入禁止にし、永遠の森づくりへと邁進した明治神宮とは大きく異なる。

芥川賞作家柴崎友香さんは20年ほど前、万博公園に2年間通った。植えられた木々が自然の森に近づいていく様子、植生の変遷を観察するためだった。樹冠を観察できるよう作られた空中の遊歩道を何度も歩いた。

柴崎さんと社会学者岸政彦さんの共著「大阪」(河出書房新社、2021年)を最近読んで、「万博公園詣で」を知った次第だが、入念な観察を可能にしたのは、人と自然の近さにほかならない。四季を二巡した柴崎さんは

本の中でこう述懐している。「どの季節も素晴らしい風景だった」。

この風景(の一部)が大阪・関西万博会場に移植されたことを知ったのも実はごく最近だった。大屋根リング内側のほぼ中央、「静けさの森」(2・300本が植えられ、来場者に憩いの場を提供するという。

「あじさいの森」付近の散策を終えて中央口へ向かった。3月下旬の休日。広大な芝生広場は家族連れ、外国人団体客などでにぎわっていた。大阪モノレール万博記念公園駅へのスロープ手前のグッズショップに寄る。太陽の塔キーホルダー、岡本太郎本などが次々売れていく。

6000万人を集めた70年万博。その跡地は55年を経てまさに現役バリバリ。生きたレガシーだった。

(わ)